

細腕なんて言わせない!!

294



「世の中は、明るくなった方がいいですよ。ですから少しでもと思い、花壇づくりなどの活動を皆で始めたんです」と、笑顔で語る金成さん

マチを明るくしたいんです

「美化運動に努めています」と語る

金成 洋子さん

■江名女性の会会長
■いわき市江名字南町二七ノ一

電話／〇二四六―五五―五三三〇

社会への奉仕、いわゆるボランティア活動に汗を流す人が年々増加中だ。ある面では「生きづらい」ともいわれている現代だけに、各地に広がる一連の奉仕は、一服の清涼剤でもある。

市地域婦人会連絡協議会の事務局長を務める傍ら、漁業のマチ、江名地区の女性たちの奉仕グループ、江名女性の会長の金成洋子さん（七二）は、「初めは、ボランティアということがわからなかったけどねえ」と笑顔で言いつつ、今は仲間たちとともに、地区の美化運動に精を出している。

会の音頭を取っている金成さんは、由来の出身。高校卒業後、神奈川の電気部品製造会社に勤務。その後結婚し、一女をもうけたものの離婚し、地元にてUターン。地区の医院に勤め、事務を続けていた三十余年前、江名に住む元高校教師の大（たけし 九〇）さんと知り合っ

て再婚した。
金成さんらの会が誕生したのは、平成二十六年の四月だった。みんなで年間の



活動内容を話し合い、最初の事業として正月一日の「甘酒提供」を決め、実行に踏み切った。
場所は江名漁港で、地区民ばかりでなく、初日の出を見に訪れる市民への奉仕をも考慮した行動だったが、「飲む人がほとんど来なくて、みんな『おたま』を持って『いかがですかあー』と、あちこち歩いたこともあったんですよ」と、笑いながら振り返った。

仲間の主婦らと奉仕作業

その後も、「地域を明るくしたい！」の一心で公民館や集会所を会場に作品展も開始。会場には内外からちりめん細工、ひょうたんのランプ、盆栽、絵画、写真、竹細工などが持ち込まれ、多くの地区民が訪れた、と言う。

こうして少しずつ歩みだしてきた彼女たちグループの奉仕作業の「真骨頂」の一つは、花壇づくり。

「あちこちに花を植えれば、マチもきれいに、明るくなるでしょ。こう思い、みんな話合って、スタートしたんですよ」

その手始めに公民館の敷地での花壇づくり。続いて漁港の土のある場所にも花壇を設け、四季折々の花を咲かせた。また、集会所にはいくつものプランターを置き、中学生たちの協力を得ながら季節の花を広げている。また、市の冬季イベント、サンシャ



インマラソンのボランティアなどにも協力を惜しまない。

こうして主婦仲間とともに熱心に活動を続けてきたもの、当初は「余計なことだ！」といった、クレーム交じりの声も小さく

なかつたようで、金成さんは、「私は勿来生まれで、ここは文化も違うし、当初は、独特のハマ言葉に驚くことも多かったです。活動が始まって九六年たちましたが、最近では地区の評価も『いいみたいですね』と言いながらにつこり。

始終笑顔で続ける金成さんは、「会長職は最初、二年の約束で引き受けたんですが、いつの間にかもう六年。ですが、マチが明るくなればいいし、私たちも人生楽しく過ごせればいいと思ひ、これからも励んでいきたいですよ」と、前向きに話していた。

公民館、漁港などに花壇作り活動も実施

プロフィール

かなり・ようこ

1949年6月5日生まれ。勿来・四沢生まれ。エネルギーが持ち前の一つで、週に数回は勿来のコーラス団で歌を歌い、プール通いも。「震災の時はお寺で御詠歌を習っていたんです。津波で自宅は床上浸水になり、主人たちと裏山へ避難しました。」「コロナ禍は、政府の初動が悪かったわね。得意な料理は「やはり煮物かな」。B型

■お知らせ=このコーナーでは、自ら選んだ仕事に、あるいはその人生においてひた向きに励み、努めている女性を紹介しています。情報をお寄せください。

※このコーナーは隔月掲載です。

◆会期 令和2年7月2日(木)~13日(月)

木肌のぬくもり 安らぎの空間

原木家具展

樺・栗・松・杉・ナラなどの原木で作られたぬくもりのあるダイニングセット・座卓・パソコンテーブル・原木テレビボードなど一堂に集め、展示即売いたします。あたたかみのある作品の数々をご覧ください。

- 栗ダイニングテーブル アンティーク仕上げ (W1,600×D900×H700)
- 背付ベンチ ●両肘チェア(1脚)

◆会期 令和2年7月16日(木)~28日(火)

夏障子注文承ります

西河竹芸展

京都の老舗

竹箆を中心にすだれやおしや展覧します。

<京都・西河プロフィール>
天保二年(1831年)創業。以来、竹芸ひと筋。葎や籐などの天然素材を生かしたオリジナルティーに富んだ作品を製作しています。